

わたしのまちの

アート巡り

ゆっくり過ごしたい日にオススメしたいのが、まちのアート巡り。作品を楽しむだけでなく、その場所の空気、建築、風景など、日常の延長に少しだけ非日常を感じさせてくれます。今回は、福岡、熊本、鹿児島を代表するアートスポットを訪ねてみました。

福岡市美術館

都心部に近接し水と緑に恵まれた大濠公園の中にある福岡市美術館。2019年3月のリニューアルオープンは、これまでの建築のデザインを踏襲するかたちで行われました。そもそもの建物をデザインしたのは日本を代表する建築家の前川國男。何年たっても福岡の象徴として愛されている前川建築の見どころをご紹介します。

地下鉄七隈線
「六本松」駅より
徒歩約10分



見る 外観

前川建築の特徴のひとつと言われているのが磁器質の打ち込みタイルです。これは、愛知県で焼かれた特注品。釉薬の反射する複雑な光はどれをとっても同じものはないそうです。なめらかな曲線が印象的

な「かまぼこ天井」は、どこか日本的な印象を醸し出しています。

ゆるやかな階段で1階から2階へ、そして館内へ。来館者を導くエスプラナードはスペイン語で「広場」を意味します。大濠公園を見渡せる開放的な空間です。



photo by SS Co., Ltd.Ueda Shinichiro

過ごす 2Fロビー

ロビーの見どころは、前川國男監修のもと作られた特注の家具。機能や配置場所に合わせ多数の種類の家具が製作されました。リニューアルの際も大半を修理・再利用して大切に使っています。



photo by 山中慎太郎 (Qsyum!)



佐藤武夫設計事務所・川元建築設計事務所共同設計団

市電「朝日通」
電停より
徒歩約5分

鹿児島市立美術館

西郷隆盛像のすぐ近く、鹿児島市城山にある鹿児島市立美術館は、薩摩藩主島津氏の居城であった鶴丸城二の丸跡にあります。昭和29年に市立美術館として開館し、九州最古の公立美術館となっています。その後、多様化する美術活動と市民の要望に対応するため、建築のリニューアルも行い、郷土ゆかりの作家を中心に、十九世紀末以降の西洋美術の作品を収集・展示しています。

見る 天井ドーム

城山を背景にシンメトリーの美しい外観をもつ美術館に入ると、明るく開放的な吹き抜けのエントランスホールが現れます。見上げると、薩摩切子の文様をデザインした美しい天井ドームを楽しむことができます。リニューアル後の昭和61年にBCS賞（建築業協会賞）を受賞しています。

過ごす カフェ・アートライブラリー

美術館に入っすぐ右手にあるカフェでは、アートを身近に感じながら喫茶・軽食を楽しめます。お天気の良い日は、前庭にあるオープンカフェも。また、2階にある休憩スペースからは前庭が一望できます。アートライブラリーで、展覧会カタログや美術に関する本にふれながらゆっくり過ごすのをおすすめです。

平成29年3月に
美術館1Fに
リニューアル
オープンした
hana café



市電「通町筋」
電停より
徒歩約1分

熊本市現代美術館

熊本市の中心部にあり、ホテルや商業施設との複合ビルの中にある熊本市現代美術館。この美術館ならではの魅力のひとつが、国際的に活躍する四人のアーティストによって手がけられた、建築物と一体化したアートを楽しむことです。

見る エントランス

エントランスホールの中心にあるのは、美術館の鼓動を象徴する「光の柱」。これはLEDライトを用いた作品によって「生死」を表現することで知られるアーティスト・宮島達男の作品です。LED（発光ダイオード）の点滅により宮島達男独自の世界観が表現されています。

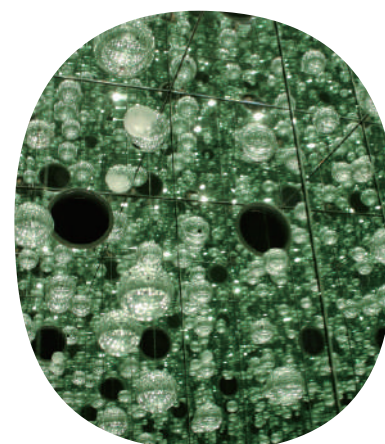
ミュージアムショップを通り過ぎて階段下に目をやると、点による絵画（ドットペイ



宮島達男《Opposite Vertical on Pillar -133651 series-》
2002年、熊本市現代美術館

過ごす ホームギャラリー

美術館の入り口に立つとすぐに目に入るのが、ホームギャラリー。美術書だけでなくさまざまな書籍を取り揃えた図書室になっています。ゆったりとした椅子が配置され、作品に囲まれながら読書を楽しむことができます。本棚はユーゴスラビア出身のパフォーマンスアーティストである、マリナ・アブラモヴィッチの作品。人が寝ることもできるユニークな本棚になっています。天井を見上げるとアメリカの現代美術家で光の芸術家とも呼ばれるジェームズ・タレルによる「光の天蓋」が部屋全体をやさしい光で包んでくれていることがわかります。



草間彌生《早春の雨》2002年
熊本市現代美術館

ンティング）で有名な草間彌生によるミラールームが現れます。どこまでも続いているかのようなミラールームを覗き込むと、そこにもうひとつの世界を感じることができま



ジェームズ・タレル《MILK RUN SKY》
マリナ・アブラモヴィッチ《Library for Human Use》
2002年、熊本市現代美術館